



みんなで取り組む流域治水



近 年、気候変動の影響で局地的な大雨の発生頻度や都市化による雨水の流出量が増加し、以前よりも浸水被害の危険性が高まっています。過去には市内でも、大雨や台風の影響で床上・床下浸水や道路冠水等の被害が発生しました。

国は各地で起きた被害を受けて、「流域治水」の取り組みを推進しています。流域治水とは、水害を減らすため、行政や地域住民など河川流域全体で対策を行うことです。取り組みを進めるための3つの柱として①氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策②被害対象を減少させるための対策③被害の軽減、早期復旧・復興のための対策を、ハード・ソフトの両面一体で多層的に進めることを掲げています。

古河市は利根川や渡良瀬川といった大河川に接しているため、大雨や台風による洪水被害に遭う危険性についても、常に考えておかなければなりません。流域治水には河川の対策だけでなく、堤防で守られた居住域側にたまる雨水(内水)への対策も含まれます。内水による被害には道路の冠水や建物への浸水などがあり、私たちの身近で起こり得る問題です。

被害を少しでも減らすため、この機会に市内各地で行われている対策を知り、流域治水について一緒に取り組んでみませんか。

古河市の 内水対策基本方針

市の取り組み

内水氾濫

市街地に降った雨が、下水道や排水路の排水処理能力を超えてあふれ出し、建物や道路などが浸水してしまうこと



市では、昨年2月に「内水対策基本方針」を策定しました。この基本方針では、行政・市民・事業者などの協働による内水氾濫への取り組みの方向性を示しています。引き続き、市内全域における浸水被害の軽減を図っていきます。

【問】 道路河川課 Tel.76-1511

4つの方針と取り組み

①公共施設などを整備する際の対策

雨水が直接河川などに流出することを防ぐため、透水性の高い道路の整備等を進めます。



②雨水流出抑制機能の維持

雨水流出抑制施設の機能と安全性を保つため、水路や施設の定期点検や清掃・補修を行います。



③市民・事業者との連携による対策

雨水流出抑制施設や止水板、土のう、田んぼダムの設置を促進します。



④大河川水害への対応の向上

早めの避難を促すためにマイ・タイムライン(避難行動計画)の作成を推進します。



五県連合利根川上流改修促進期成同盟会とは

茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉県にある29の市町村や25の関係団体で構成されており、昨年の8月からは古河市長が会長を務めています。

Interview

住民の安全な生活のために



五県連合利根川上流改修促進期成同盟会
事務局 坂田義彦さん

昭和23年の結成以来、利根川上流の防水や利水・治水のための要望活動をしており、内容はダム建設や治水事業の促進などさまざまです。令和2年度には、長年の要望がかなった八ッ場ダムが完成。このダムは、利根川下流部への洪水調節や水道・工業用水の補給、流水の機能維持などを目的にしたもので、完成までに70年以上かかりました。

また渡良瀬遊水地においても、湿地再生と治水機能強化につながる掘削や、掘削土を利用した周辺河川の堤防整備等を要望しています。これは令和元年東日本台風で、遊水地の貯水能力の9割を超える過去最高の貯水量を記録したことを踏まえたものです。渡良瀬遊水地の豊かな自然を保ちながら、安全な環境を整備するには課題もありますが、流域に住む皆さんが安心して暮らせるよう、今後も各機関と調整していきます。